

～ 体温を測ろう！！① ～

今回から牛の体温についてあれこれと書いていくつもりです。

体温のことを知ってもらい、もっと日常的に測定する習慣をつけてもらえればと思います。

➤ 平熱？発熱？低体温？

人では36℃ぐらいが平熱で37℃を超えて発熱すると体がものすごくダルくなりますね。

牛の場合はだいたい38.5℃が平熱で39℃を超えるとどこかで発熱要因があることがほとんどです。子宮だったり、乳房だったり、肺だったり.....牛は感染が多いのです。もの言わぬ牛はなかなか体がダルいことを声には出さないの、食欲や乳量をみることで昨日と様子が違うことを察知しないとイケません。

少しでも「あれっ？なんかいつもと様子が違うぞ」と感じつつも「獣医に診てもらおうほどでもなさそうだしなあ」と思うことがあればまずは体温を測ることを強くお勧めします。

教科書的には牛の平熱は成牛で38.0℃～39.0℃、子牛で38.5℃～39.5℃とされています。

子牛は1か月齢くらいまでは成牛と比べて0.5℃くらい体温が高く、その後徐々に成牛の体温に近づいていきます（下図参照）。実際の現場では外気温等の環境、分娩前後や発情等にも左右しますし、個体差もあって少し平熱からズレていても問題のないこともあります。

	平熱	微熱	中熱	高熱	低体温
成牛	38.0～39.0	39.0～39.5	39.5～40.0	40.0以上	37.5以下
子牛	38.5～39.5	39.5～40.0	40.0～40.5	40.5以上	38.0以下

最近診療中に気が付くことは、「ちょっとこの子牛のミルクの飲みが悪いんだよねえ」という子牛の体温を測ってみると微熱から中熱の間がほとんど。肺を聴診すると呼吸は早いですが肺炎と呼ぶほどではない少し粗い程度の肺音しか聴こえず、このような子牛には抗生剤と解熱消炎剤を注射してやると翌日から元気ピンピンでミルクをがぶ飲みし出してくれます（逆に誤嚥性肺炎になるんじゃないのかと心配になるくらい）。

また親牛でも「少し食欲や元気がなくて...」という牛の体温を測ると実は「40.0℃！」なんてこともあります。臭いはしなくても大量に悪露が溜まっていたり、乳房が腫れたりブツが出たりしなくても大腸菌の乳房炎だったり、と体温を測るだけでいち早く異常を感知することができるわけです。

もちろん上記のことがすべてではなく、腸炎で下痢をしていると発熱していても直腸温は低下して平熱以下を示すこともありますし、大腸菌乳房炎でもショック状態のステージによっては体温が低下して平熱のこともあるので、どういうときに熱が上がり下がりするのかは次回以降にもう少し詳しく書きますね。

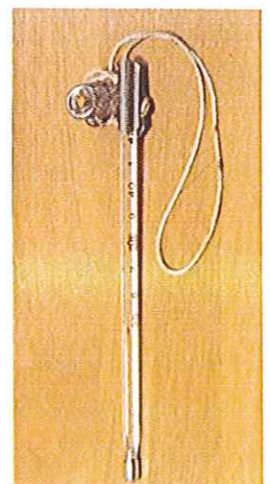
➤ 体温計あれこれ

これまで一般的に普及していた体温計は右の写真のような水銀体温計でした。

ただこの体温計は測定に1～3分ほどの時間を要することが、農家さんが日常的に体温測定することを嫌う一つの要因な気がします。（水銀の目盛を下げ過ぎなければわりと素早く測定できますが）

獣医が水銀体温計で測定する場合は、直腸に体温計を入れてから聴診したり乳汁をみたりしている間に測定が完了しているので非常に使いやすいですが、農家さんが使用する場合は体温計を入れてじっと待たないといけなく、何か他の作業をしながら測定していると体温計を抜き忘れて、途中で排便されて再度測りなおさないといけなかったり、となかなか日常的に測定するということが定着しません。

またこの水銀体温計は環境汚染の問題からか2年くらい前から製造中止になり始め、入手が困難になりつつあります。（そのうち完全になくなるかも）



そこで最近売り出されてきたのが右の写真の電子体温計。

こちらは約 8 秒で計測されるので農家さんが気になる牛の体温をさっと測るのにはとてもおすすめ。ですが、少し誤差があることには注意していただき、正確に測定するには数回測定して確かめる必要があるようです。

また電子体温計は測定の際じっと牛の直腸に入れて持っていないといけないので、我々獣医師が使用する場合は体温を測定するために数十秒の時間がとられることは少なからずストレスになりそうです。

お値段は 6,000 円程度。乾電池交換式。



これまでほとんどマネジメント情報を書いておらず心優しい上司から毎月のように「書け」「書け」言われており、今年も今月で最後と言うことなので、満を持して連載ものを書くことで来月も書かなくては行けない（漫画家のような？）状況に身をおくことで今後もマネジメント情報を毎月書けるように自分に仕向けた次第です。

いざ書き始めるとダラダラ長くなってしまい、簡単に 1 ページが埋まってしまったので次回以降はもう少し掘り下げた深い内容を書ければなあ、と思います。

ということで、今年も残すところあと 1 週間余りです。今年は繁殖検診を始めさせていただいたり、DC305 のセミナーに同行させていただいたり、など様々なことをトライしてもらいましたが、ああすれば良かったこうすれば良かったと反省する点は多々あります。研鑽が足りてません。

来年は子牛から親牛の管理、餌のことや牛舎のことなどもっと酪農についてのすべてのマネジメントに関する知識を深め、農家の皆様と共により良い仕事ができればと思っております。

追記

僭越ながら早くも新車を買っていただきました。

マツダ『CX-5』

流行りのクリーンディーゼルです。

ちなみに行く先々で聞かれますが、前の車は壊したわけではなく、

「勝手に壊れましたんで！！」

CX-5 でこれまで以上に頑張ります！

